



おのみ



令和3年度 10月号
志布志市立尾野見小学校

秋を学ぶ

校長 宗岡 克英

先日、生活科の学習で1・2年生と一緒に大崎ふれあいの里公園と、くにの松原へ行き、秋探しをしました。単元「たのしい あき いっぱい」では秋の自然と関わることを通して、身近な自然の違いや特徴を見つけることをねらいとしています。そして身近にある自然の産物を使って遊び道具を工夫して作ることを通して秋について学ぶことを学習の目標としています。子ども達は、学校とは異なる環境の中で遊びながら秋の自然と触れあう体験をすることができました。ふれあいの里公園にはくすの木が多く植えられていました。季節の変わり目でしたのでその枯れ葉がたくさん落ちていました。枯れ葉をよく観察してみると葉の色が緑赤黄茶と徐々に変化していることがわかりました。くにの松原には松ぼっくりがたくさん落ちていました。子ども達は夢中になって松ぼっくりを拾いました。ゴツゴツと固い松ぼっくりを手で触ることによって子どもたちは秋の訪れを肌で感じる



することができました。その後、それぞれ自分の袋いっぱい松ぼっくりをつめこみました。どの子も松ぼっくりでいっぱいになった袋を

嬉しそう私に見せてくれました。

生活科の学習は、子ども達の生活圏である学校や家庭、地域を学習の対象として、身近にいる人々、地域社会や地域の自然と直接的に関わる活動や体験を重視しています。そしてその体験の中で感じたり考えたたりしたことを様々な方法で表現します。最終的にはこのような生活科の学習を通して、子ども達自らが自立し生活を豊かにすることを目的としています。

公園で秋探しをした後の1年生の生活科の授業で、子ども達は自分のおすすめの秋をともだちに紹介しました。11人それぞれがおすすめの秋を持っており、すすめる理由を発表することができました。全員がともだちのおすすめの秋を聞くことによって、自分一人で感じていた秋より広くそして具体的に秋のイメージをつかむ事ができました。体験を通して感じたことや考えたことをお互いに伝え合い、自分の秋について考えることができました。これこそまさに生活科の学びです。



11月4日(木)に開催されるおのみっ子フェスティバルでは、秋探しの授業で見つけた枯れ葉やドングリ、松ぼっくりなどを用いて子ども達が製作した様々な作品を紹介します。それぞれの作品に子ども達の秋のイメージが具現化されていると思います。是非子ども達が学んだ秋を見におのみっ子フェスティバルへお越し下さい。